日本の高度経済成長を支えた電力供給。
その市井の電力事情から原子力発電までを様々な角度から読み取る貴重な資料の刊行！

東電グラフ 復刻版



電力不足による多発する停電（1953 年）から、
東京オリンピック（1964 年）、そして、
東電原子力開発計画（福島）（1965 年）まで、
戦後崩壊した日本経済の軌跡を辿る貴重な
グラフ広報誌の電子書籍化。

2023 年 7 月発売予定

なぜ、いま『東電グラフ』を刊行するか？その意義と意味について

ロシアのウクライナ侵攻による世界経済への影響とエネルギー危機。
エネルギーの大半を火力発電に依存し、エネルギー資源の大部分を輸入（経済産業省・資源エネルギー庁によると、2019 年度の日本のエネルギー自給率は 12.1%。経済協力開発機構（OECD）に加盟している 36 カ国の中でも、日本は 35 位と低い水準です）に頼る日本への深刻な打撃です。「東電グラフ」は、この世界的なエネルギー危機の背景を、従来とは異なる視座を示すかもしれない。

同時 1 ～ 3 アクセス共に 同一価格です

『東電グラフ 復刻版』(1954 年 10 月号～ 1967 月 12 月号) ※欠号あり

本体価格：**154,000 円＋税**（税込 169,400 円）　ISBN 978-4-86759-342-4

※上記を 2 期に分けて分売もいたします。各本体価格：**77,000 円＋税**（税込 84,700 円）

本紙の試読は、刊行と同時に閲覧が出来ます！

試読サイト：https://kanae-ebook-0303.actibookone.com/

経済産業を牽引してきた東京電力監修・刊行の広報誌「東電グラフ」、本誌からエネルギー危機、電気代・物価高騰の諸問題解決の端緒を見出す



本書を推薦いたします（敬称略）

橘川武郎（きっかわたけお）　国際大学副学長・国際経営学研究科教授

欧州先進諸国の GDP を次々と追い抜き、「世界史に残る奇跡」と呼ばれた日本経済の高度成長。1950 年代半ばに始まり 70 年代初頭まで続いた怒涛の成長を牽引したのは、間違いなく電力であった。最大の民間設備投資を行ったのは電力業界であったし、家庭の隅々にまで電化製品が行きわたったのもこの時代であった。

日本を代表する電力会社である東京電力が発行した月刊誌『東電グラフ』の復刻版は、豊富な写真とわかりやすい記事によって、高度成長がもたらした変化の実像を昨日の出来事のように再現する。「三種の神器」（白黒テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫）やカラーテレビの普及によって一変してゆく家庭から、新鋭火力・大規模水力・原子力の大規模工事が進む電源開発の現場まで、『東電グラフ』の視界は広い。のちに悲惨な事故を引き起こす福島第一原子力発電所がどのような経緯で建設されたのかも、知ることができる。

『東電グラフ』は、今日の日本の原型がいかに形成されたかを伝えている。それが復刻されたことの意義は大きい。

お奨めします

近現代史、経済産業史、エネルギー産業史、政治、商業、社会学、国際問題研究、メディア史、社会史、女性史、都市計画・開発の研究者、大学図書館、公共図書館など

弊社刊行の『毎日グラフ 復刻版』・『鉄道雑誌集成１国鉄・地下鉄編』との併読をお勧めいたします。

株式会社かなえ
〒170-0014　東京都豊島区池袋1-10-8
TEL : 03-3982-6633　FAX : 03-6789-5706
Email : info@kanae-book.co.jp
U R L : https://kanae-book.co.jp

取扱店

紀伊國屋書店 学術電子図書館
KinoDen
Kinokuniya Digital Library